

茂原市の概況

目次

1 都市としての拠点性.....	1
1. 人口	1
(1) 人口の推移.....	1
(2) 年齢5歳階級別人口の推移.....	2
(3) 人口動態の推移.....	3
(4) 年齢階級別純移動数の時系列推移.....	4
(5) 人口増減率.....	5
(6) 高齢化率	5
(7) 1世帯当たり人員.....	6
(8) 女性の若年層有配偶率と合計特殊出生率.....	7
2. 産業	8
(1) 昼夜間人口.....	8
(2) 産業大分類別に見た事業所数と従業者数（事業所単位）.....	9
(3) 産業大分類別に見た付加価値額（企業単位）.....	10
(4) 事業者数・従業者数・製造品出荷額等の推移（製造業）.....	11
(5) 産業別就業人口構成比.....	12
(6) 従業者1人当たり製造品出荷額等.....	13
(7) 従業者1人当たり製造業粗付加価値額.....	14
(8) 高齢者・女性の就業率.....	15
(9) 滞在人口の居住都道府県別割合.....	16
3. 茂原市の財政状況.....	17
(1) 歳入の推移.....	17
(2) 歳出の推移.....	18
4. 行財政	20
(1) 財政力指数.....	20
(2) 経常収支比率.....	21
(3) 実質公債費比率.....	22
(4) 将来負担比率.....	22
2 生活の場としての魅力.....	23
1. 住まい・環境	23
(1) 持ち家世帯比率・1住宅当たり延床面積.....	23
(2) 空き家率	24
(3) 通勤時間（持ち家世帯）.....	24
(4) 1人当たり都市公園面積.....	25
(5) ごみ・リサイクル.....	26
2. 子育て・教育	27
(1) 保育所	27
(2) 義務教育	28
3. 安全安心・医療福祉.....	29
(1) 交通安全	29
(2) 防犯	30
(3) 医療体制	31
(4) 健康寿命	32
(5) 65歳以上人口10万人当たり介護施設数・事業所数	33
4. 消費生活	34
(1) 1人当たり年間商品販売額.....	34
(2) 1人当たり大型店舗面積.....	35

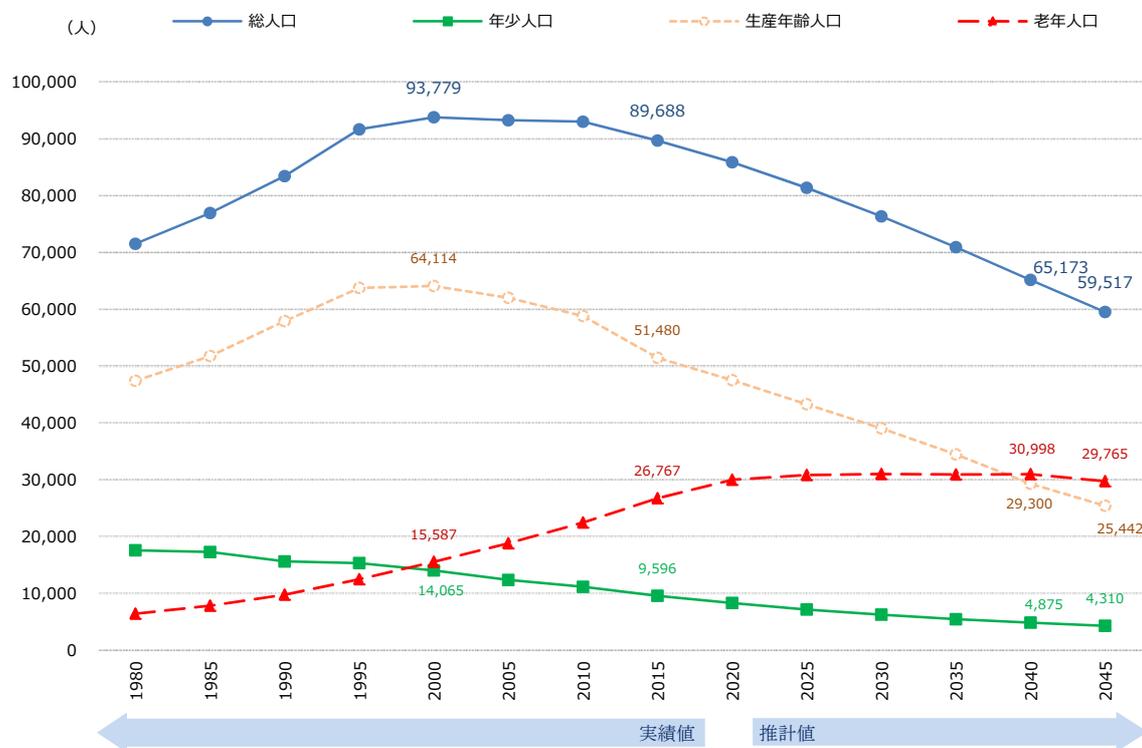
1 都市としての拠点性

1. 人口

(1) 人口の推移

- 茂原市の総人口を国勢調査から見ると、2000年の93,779人をピークに減少に転じ、2015年の国勢調査では、89,688人となっています。
- 国によれば、総人口は今後も減少を続け、2045年には59,517人になるとされています。
- 年少人口と生産年齢人口は減少を続けており、2045年には高齢化率が50.0%になると推計されています。

図表 総人口の推移

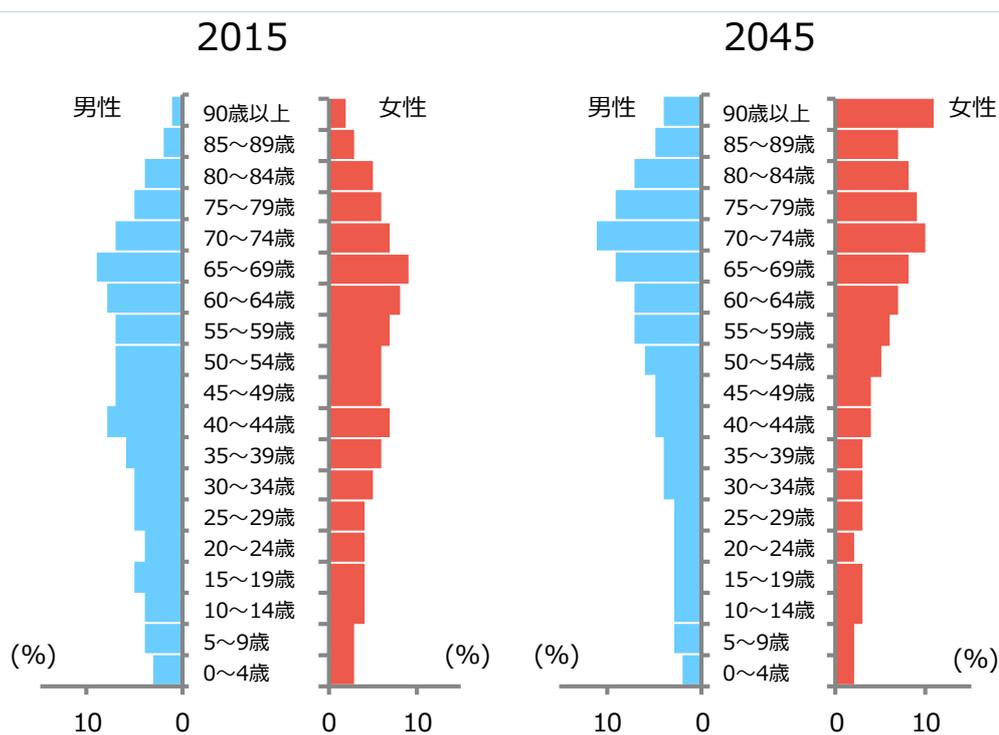


【出典】総務省「国勢調査」2015年、
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年
※2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月）に基づく推計値

(2) 年齢5歳階級別人口の推移

- 男女別・5歳階級別人口を見ると、生産年齢（15歳～64歳）では、2015年の時点ですでに、20歳～24歳が最も少なくなっており、この傾向は2045年も変わらない見通しです。
- 最も多い年齢階級は、2015年時点では、65～69歳ですが、2045年には、70～74歳にシフトします。

図表 年齢5歳階級別人口の推移

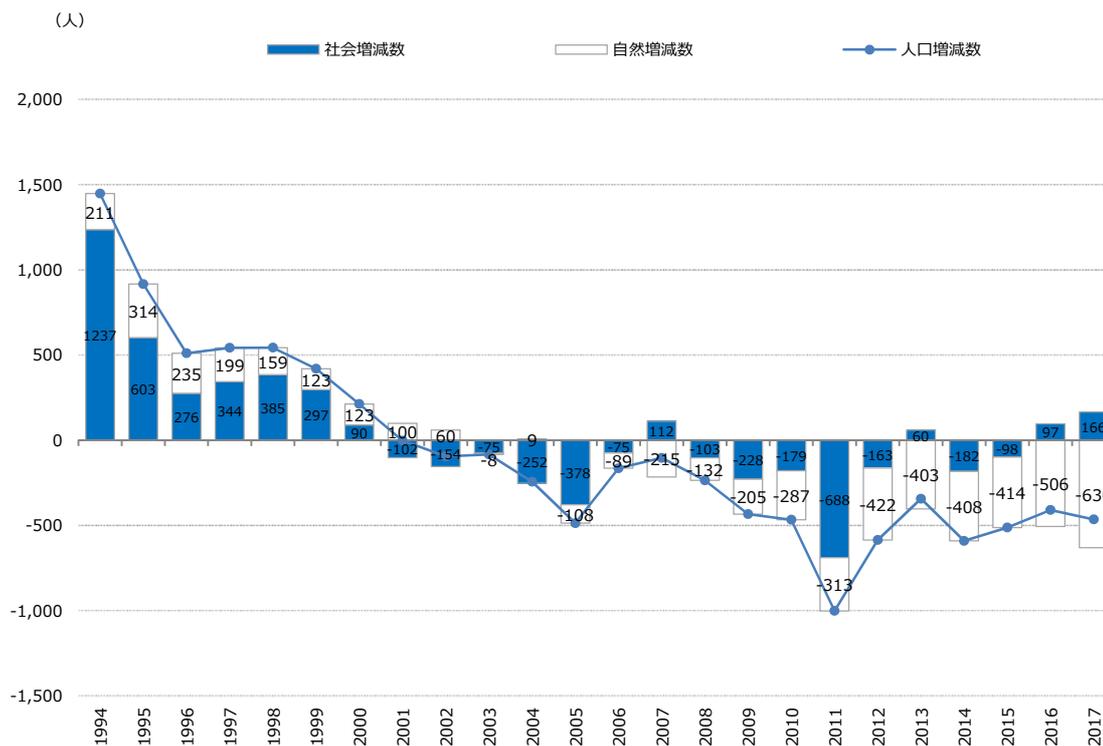


【出典】総務省「国勢調査」2015年、
 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」2018年
 ※2020年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成30年3月）に基づく推計値

(3) 人口動態の推移

- 茂原市では近年、出生者数が死亡者数を下回る人口の自然減が一貫して生じており、特に2008年以降は自然減数の拡大が見られます。
- また、年によって逆転はあるものの、転入者数が転出者数を下回る社会減の傾向が続いています。

図表 自然増減・社会増減の推移



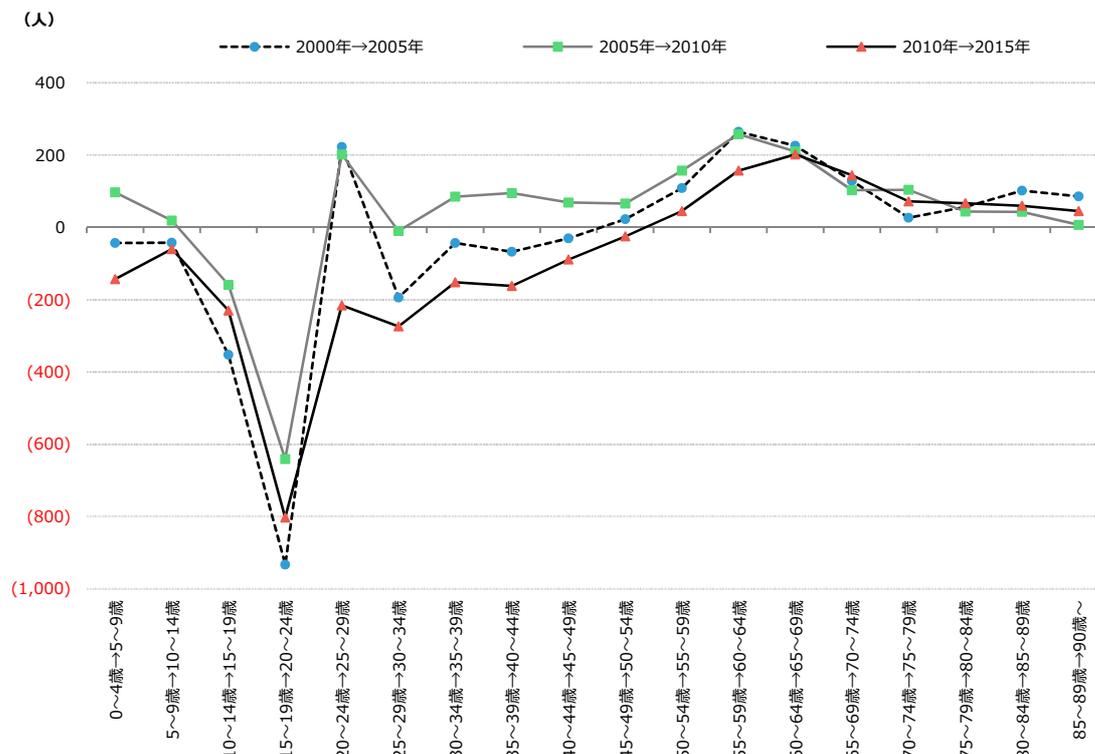
【出典】総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」
 ※2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む。

(4) 年齢階級別純移動数の時系列推移

- 年齢階級別の純移動数（転入者と転出者の増減数）を時系列に見ると、2000年～2015年の各5年間で、15歳～19歳の減少幅が大きくなっており、進学や就職などで茂原市を離れる若者が多いことが分かります。
- 2000年～2005年、2005年～2010年は、20～24歳の純移動がプラスになっており、進学や就職などで茂原市を離れた若者が一定数戻ってきていたとも考えられますが、2010～2015年はマイナスに転じています。また、2005年～2010年は、30～49歳の純移動数がプラスになっており、子育て世代が一定数流入していたと考えられますが、2010～2015年はマイナスに転じています。

図表 年齢階級別純移動数の時系列推移

(例) 2000年から2005年の間には、0～4歳の集団は5～9歳の集団になります（0～4歳→5～9歳）。青の折れ線は、その期間における当該集団の純移動数を示しています。

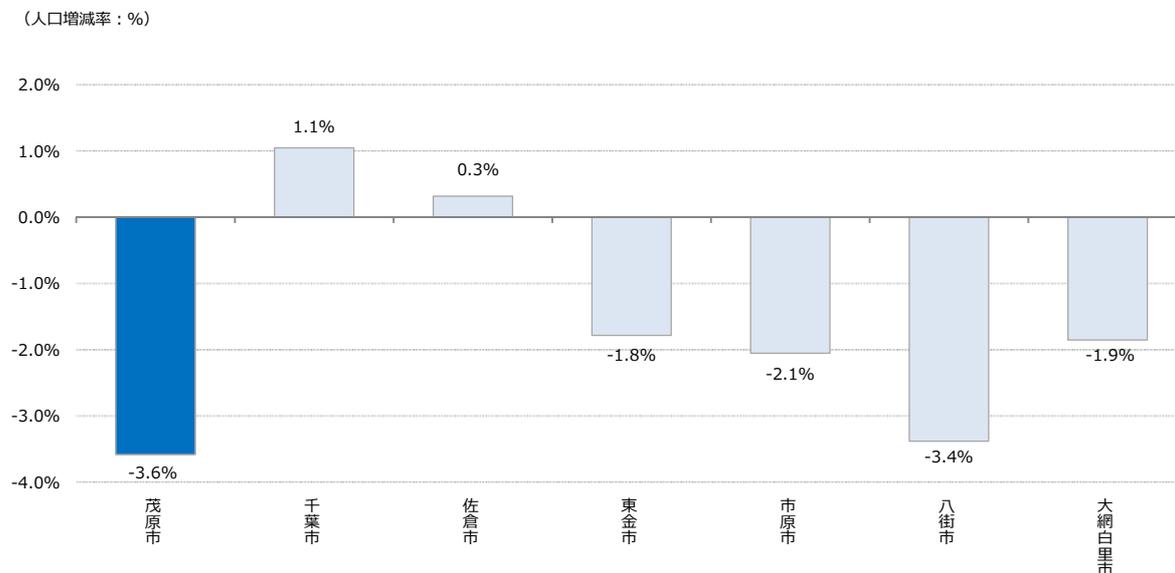


【出典】総務省「国勢調査」2015年

(5) 人口増減率

- 2010年から2015年の人口増減率について周辺自治体と比較すると、茂原市は-3.6%と、人口減少が顕著です。

図表 人口増減率の比較

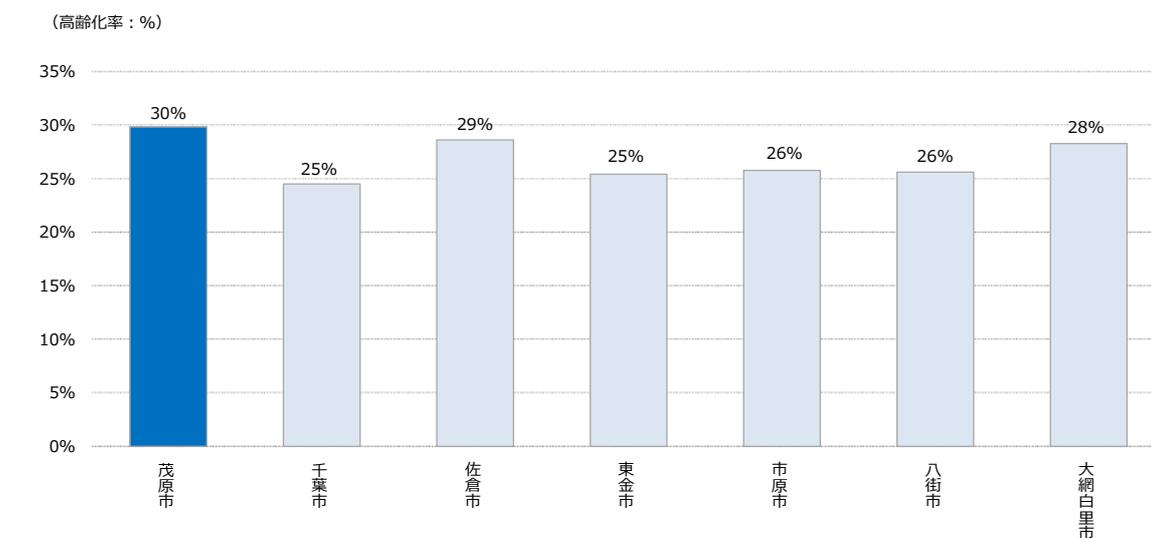


【出典】総務省「国勢調査」2015年

(6) 高齢化率

- 高齢化率を周辺自治体と比較すると、茂原市は30%で最も高くなっています。

図表 高齢化率の比較

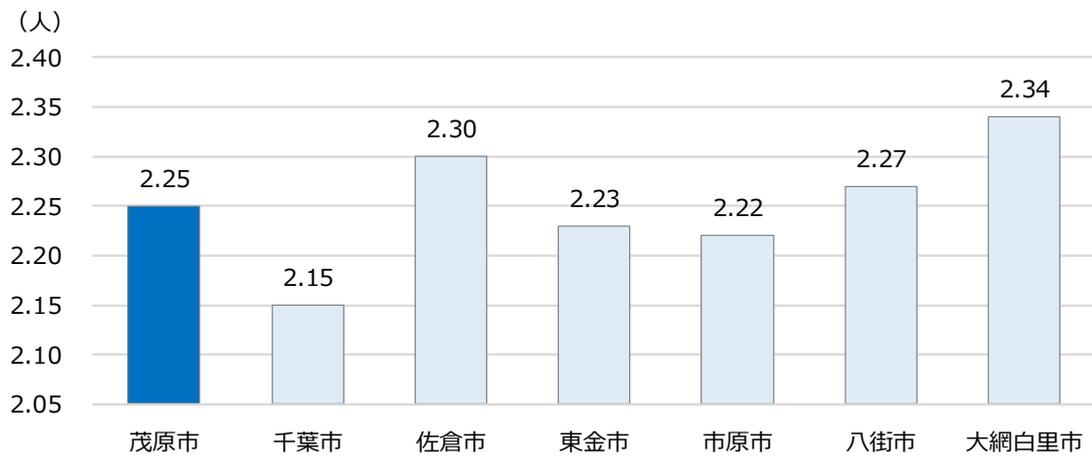


【出典】総務省「国勢調査」2015年

(7) 1世帯当たり人員

- 茂原市の1世帯当たり人員は2.25人で、周辺自治体と比べて標準的な人数となっています。

図表 1世帯当たり人員の比較

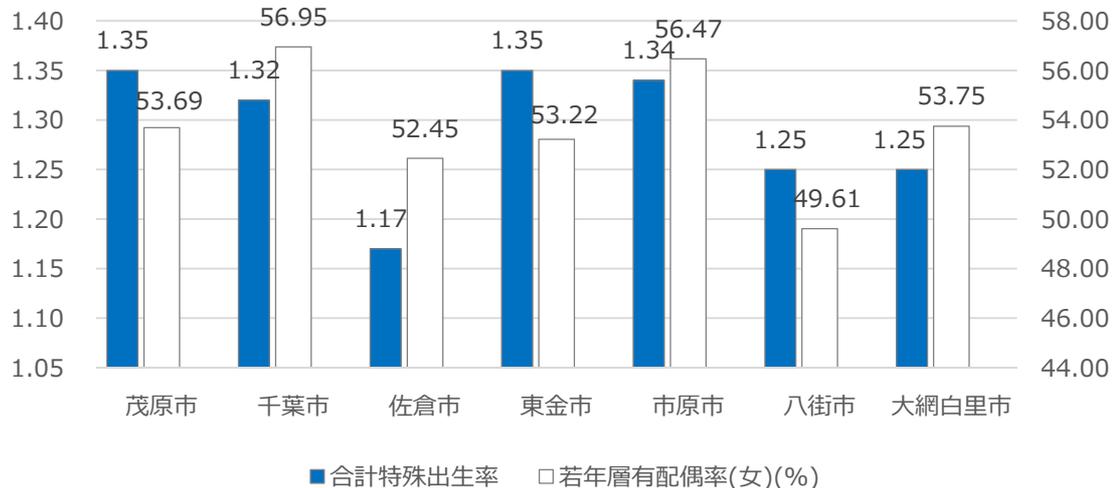
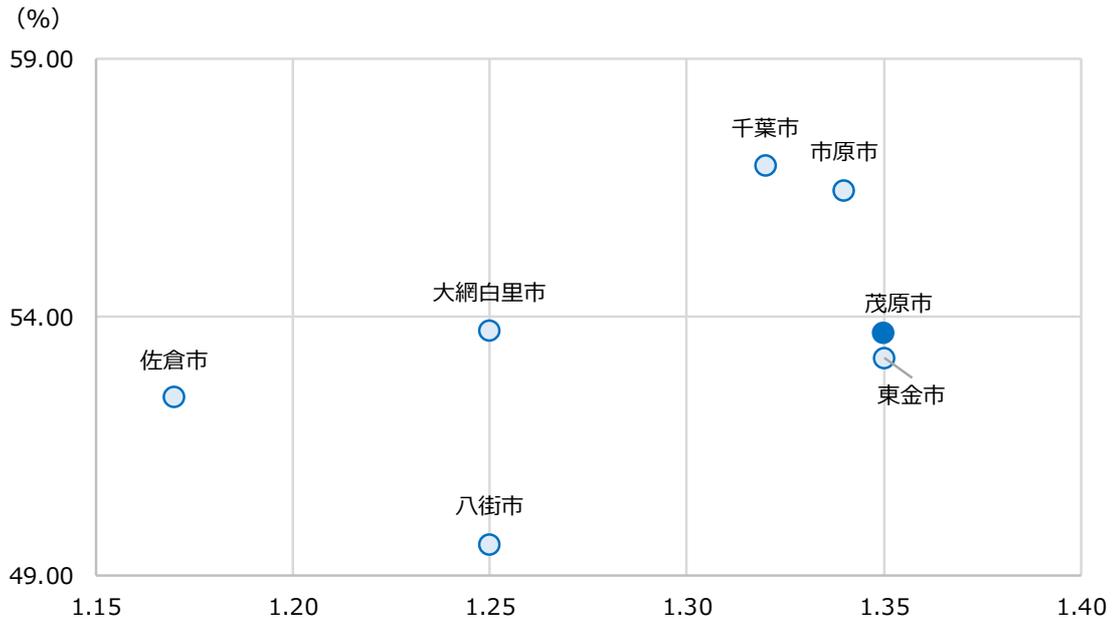


【出典】総務省「国勢調査」2015年

(8) 女性の若年層有配偶率と合計特殊出生率

- 女性の若年層有配偶率¹と合計特殊出生率（2008～2012年）をプロットしたところ、おおむね女性の有配偶率が高いほど、合計特殊出生率も高い傾向にあります。
- 茂原市は周辺自治体の中では女性の若年層有配偶率は中程度ですが、合計特殊出生率が最も高くなっています。

図表 女性の若年層有配偶率と合計特殊出生率の比較



【出典】総務省「国勢調査」2015年
厚生労働省「人口動態保健所・市区町村統計の概況」2008～2012年

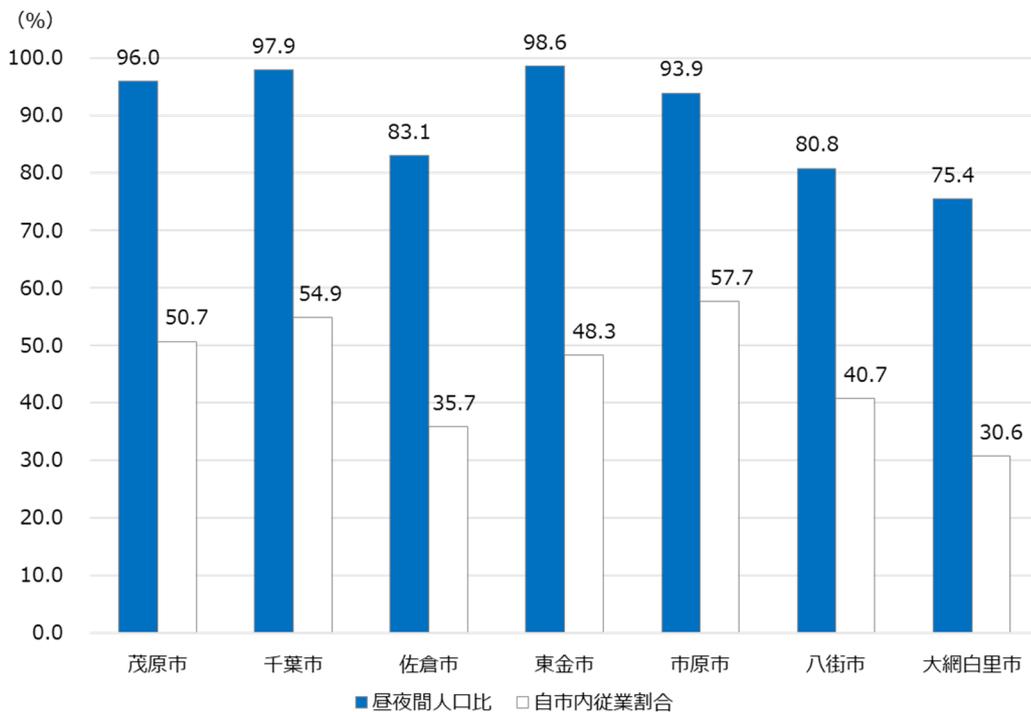
¹ 若年層有配偶率：25～39歳人口のうちの有配偶者の割合

2. 産業

(1) 昼夜間人口

- 茂原市の昼夜間人口比²は、千葉市（97.9%）と同程度の水準にあります。
- 昼夜間人口比は高齢化が進行すると上昇する傾向がある一方、産業集積による効果も考えられます。
- 自市内従業割合（茂原市に常住する就業者のうち茂原市において従業する者の割合）を見ると、茂原市は千葉市（54.9%）に次ぐ水準となっており、従業の場としての拠点性を有していると言えます。

図表 昼夜間人口比・自市内従業割合の比較



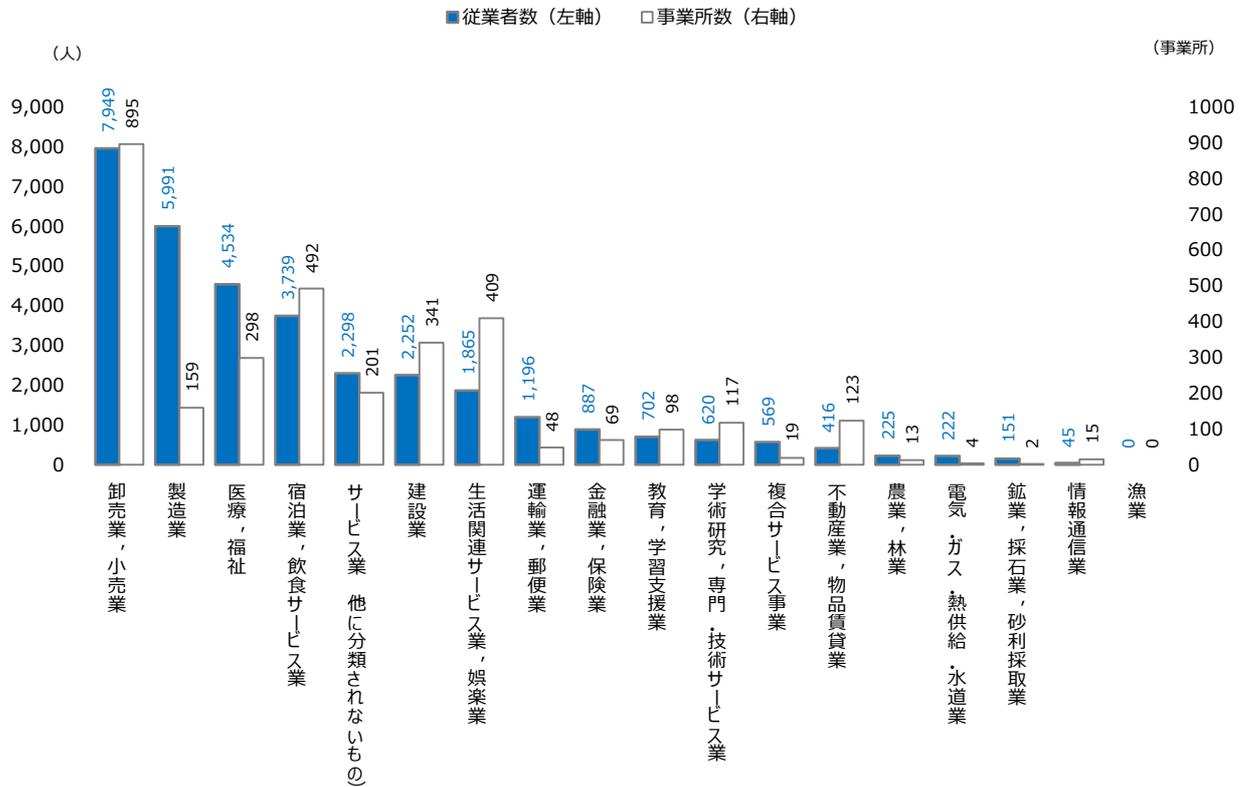
【出典】総務省「国勢調査」2015年

² 昼夜間人口比：常住地による人口（夜間人口）を100とした時の昼間人口の比率を指す。昼間人口は、夜間人口から、他の市区町村への通勤・通学者を除き、他の市区町村からの通勤・通学者を加えたもの。

(2) 産業大分類別に見た事業所数と従業者数（事業所単位）

- 産業大分類別で従業者数に占める割合を見ると、卸売業・小売業、製造業、医療・福祉、宿泊業・飲食サービス業が多く、これらが茂原市の中心的産業と言えます。

図表 産業大分類別に見た事業所数と従業者数（事業所単位）

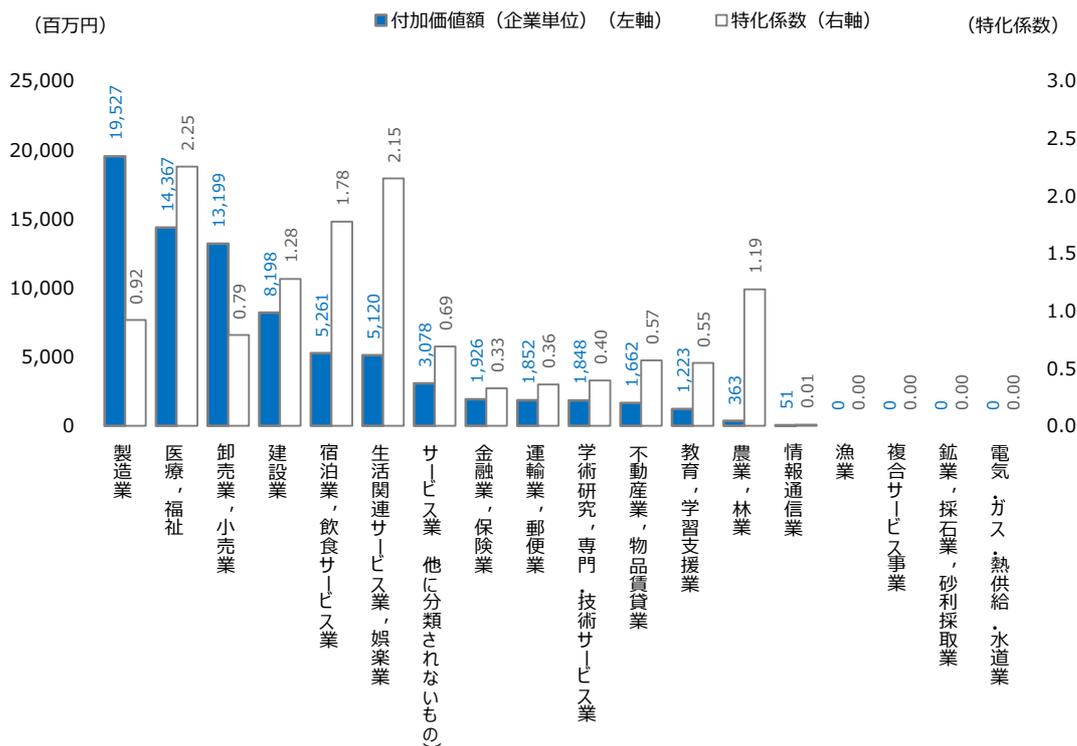


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス」2016年

(3) 産業大分類別に見た付加価値額（企業単位）

- 産業大分類別に見た付加価値額（企業単位）の大きさを見ると、製造業、医療・福祉、卸売業・小売業、建設業、宿泊業・飲食サービス業の順となっています。
- また、従業者当たりでは、全国＝1とした特化係数で見ると、医療・福祉（2.25）、生活関連サービス業、娯楽業（2.15）、宿泊業・飲食サービス業（1.78）の順に多く、これらの産業で集積度が相対的に高くなっていると言えます。

図表 産業大分類別に見た付加価値額（企業単位）

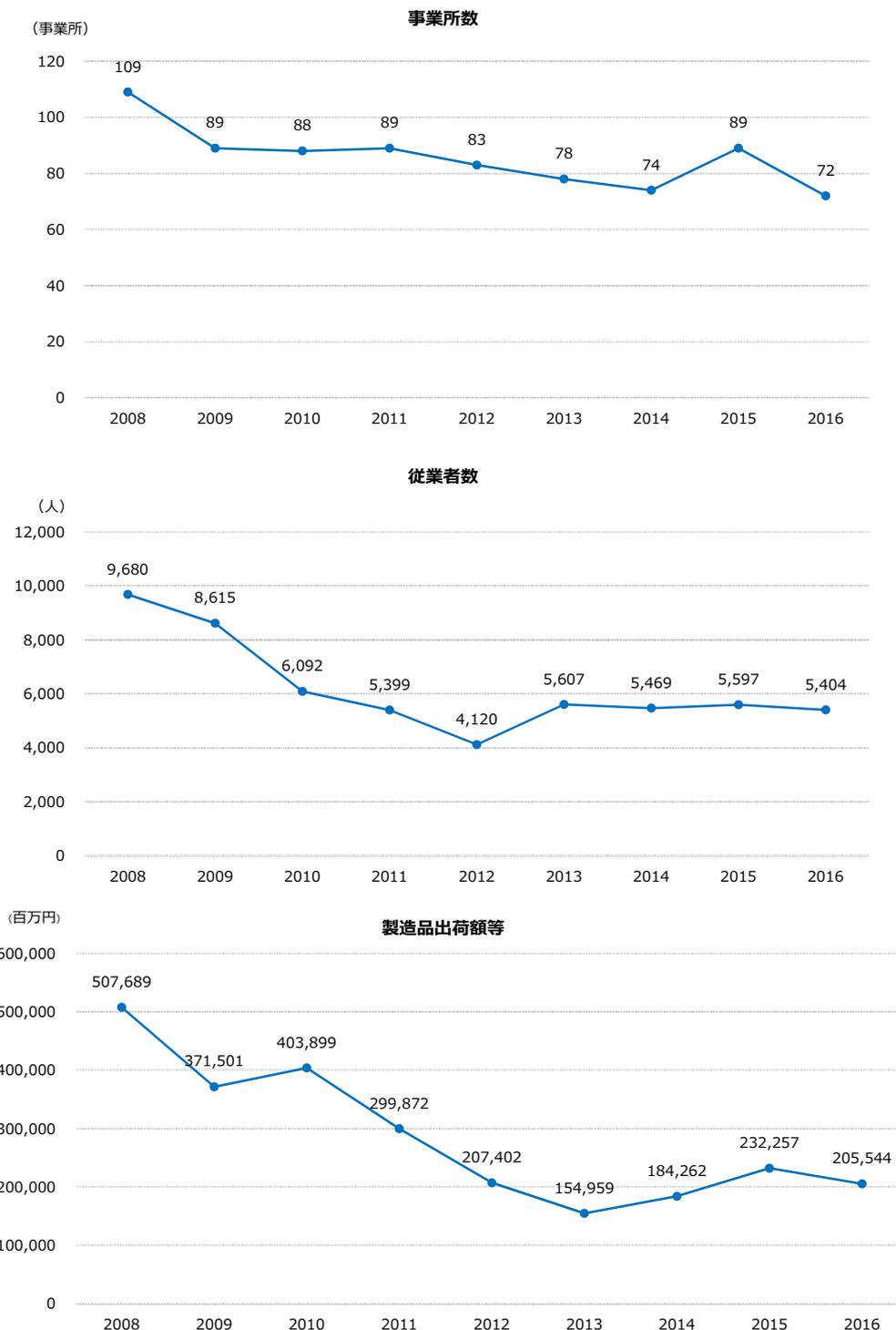


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス」2016年

(4) 事業者数・従業者数・製造品出荷額等の推移（製造業）

- 長期的に見て、製造業の事業所数、従業者数、製造品出荷額等のいずれも減少傾向にあります。従業者数（市内で従業する人数。茂原市民以外も含まれる）は2012年に大きく落ち込んだ後は、減少幅が緩やかになっています。
- 製造品出荷額等は2013年に一度底を打ち、回復に転じましたが、2015年からは再び減少しています。

図表 事業者数・従業者数・製造品出荷額等の推移（製造業）

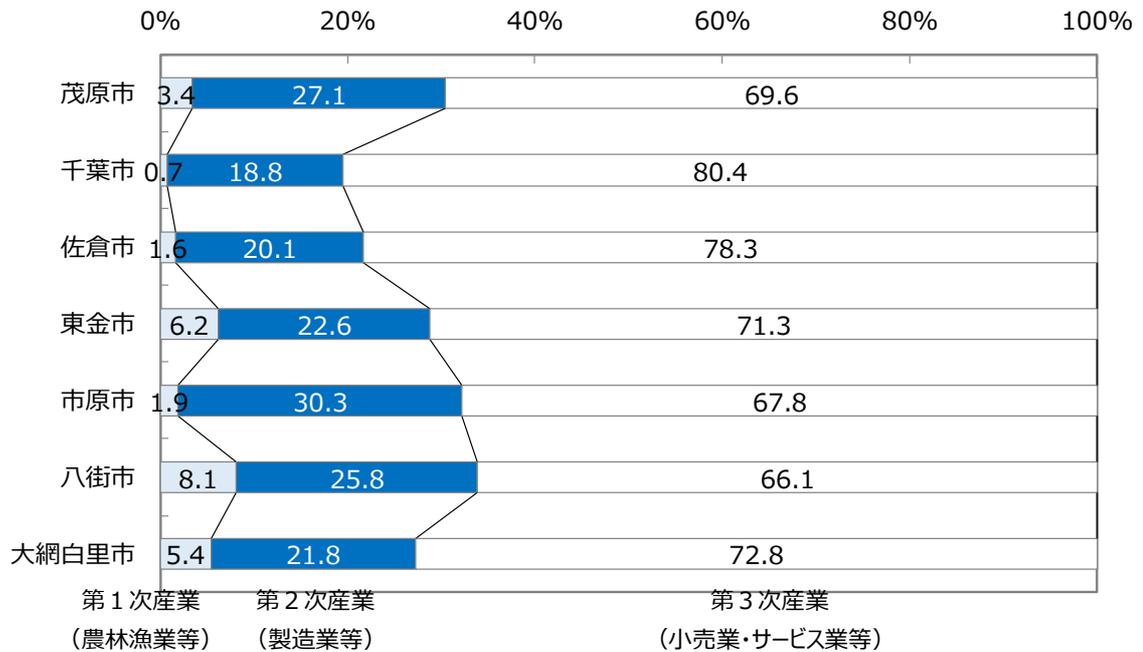


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス」2016年

(5) 産業別就業人口構成比

- 茂原市の産業別就業人口構成比を見ると、製造業などが含まれる第2次産業の割合が27.1%となっており、周辺自治体と比べて高くなっています。

図表 産業別就業人口構成比の比較



【出典】総務省「国勢調査」2015年

(6) 従業者1人当たり製造品出荷額等

- 茂原市の従業者1人当たり製造品出荷額等（1年間における製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額及び製造工程からでたくず及び廃物の出荷額の合計）は3802.8万円で、国内最大規模の石油化学コンビナートを有する市原市のほか、千葉市を下回るものの、周辺自治体に比べて高い相対的に高い水準となっています。

図表 従業者1人当たり製造品出荷額等の比較



【出典】総務省・経済産業省「経済センサス」2016年

(7) 従業者1人当たり製造業粗付加価値額

- 茂原市の従業者1人当たり粗付加価値額（事業所の生産活動において新たに付け加えられた価値）は1540.1万円で、国内最大規模の石油化学コンビナートを有する市原市は下回るものの、千葉市の1388.7万円を上回っています。

図表 従業者1人当たり製造業粗付加価値額の比較

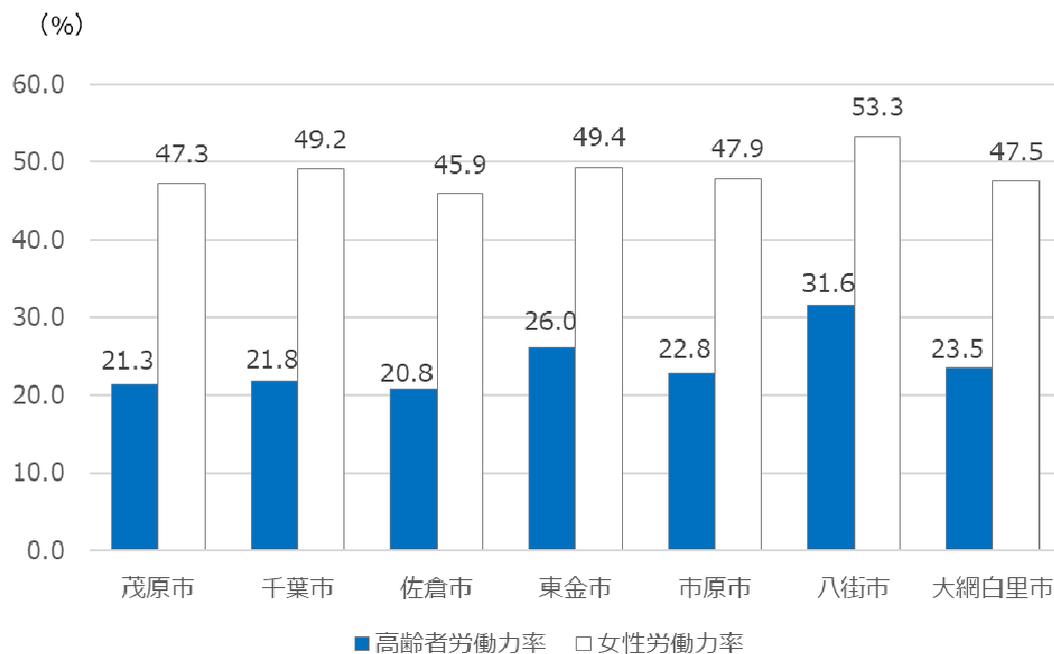


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス」2016年

(8) 高齢者・女性の就業率

- 高齢者と女性の就業率について周辺自治体と比較すると、茂原市の高齢者就業率は21.3%、女性の就業率は47.3%で、周辺自治体と比べて同程度の水準となっています。

図表 高齢者・女性の就業率の比較

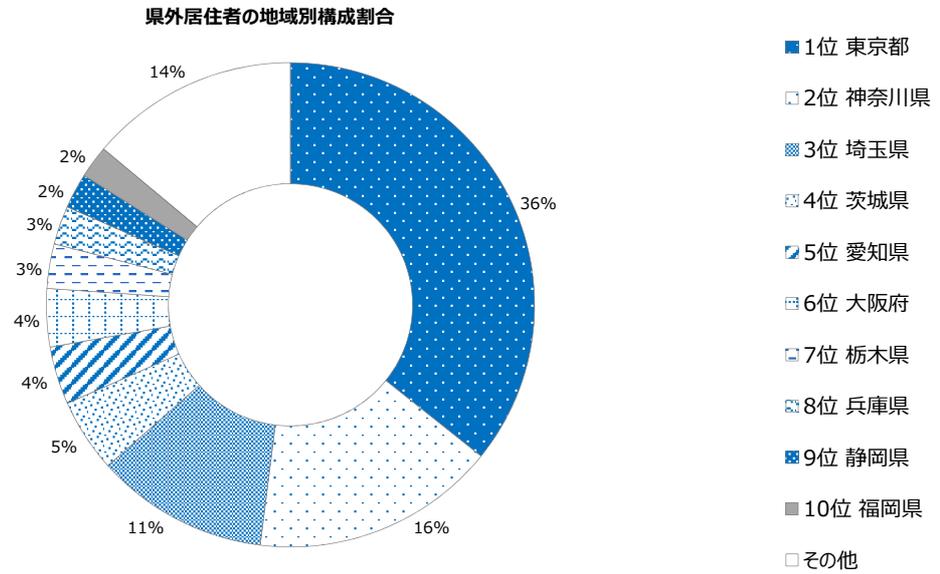


【出典】総務省「国勢調査」2015年

(9) 滞在人口の居住都道府県別割合

- 2019年1月の休日14時に茂原市に滞在した県外居住者の居住地は、東京都、神奈川県、埼玉県の順で多くなっています。

図表 滞在人口の居住都道府県別割合（2019年1月、休日14時）



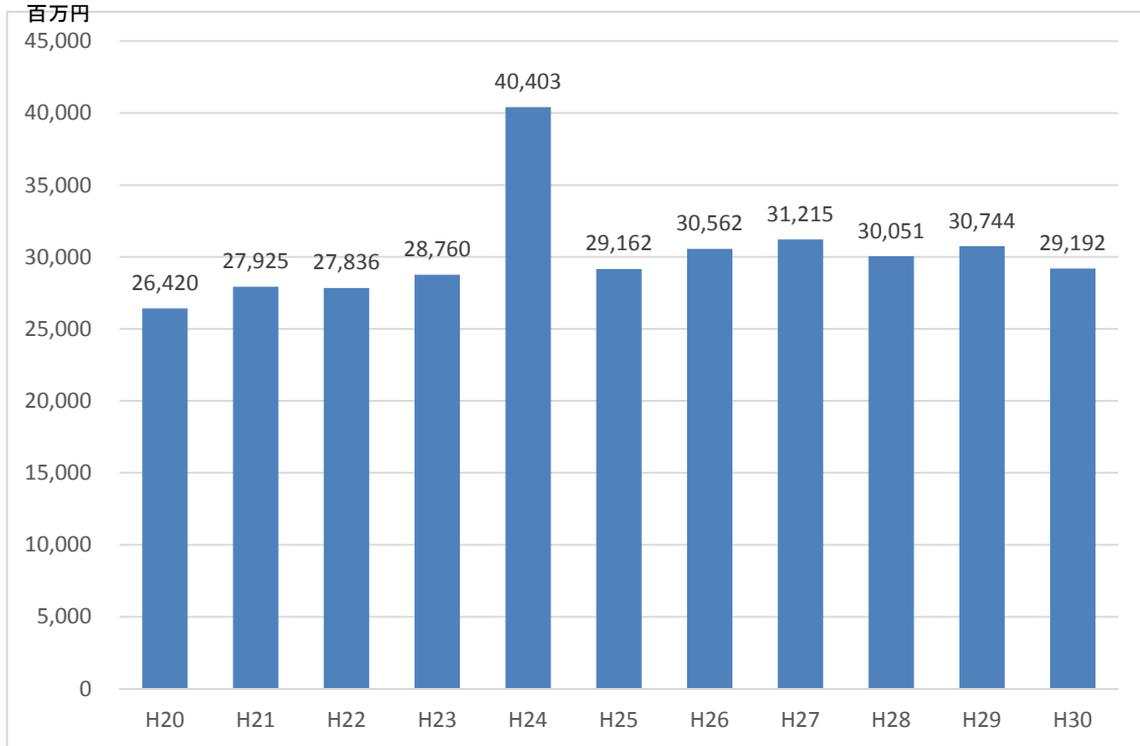
【出典】(株)NTTドコモ・(株)ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」2019年1月

3. 茂原市の財政状況

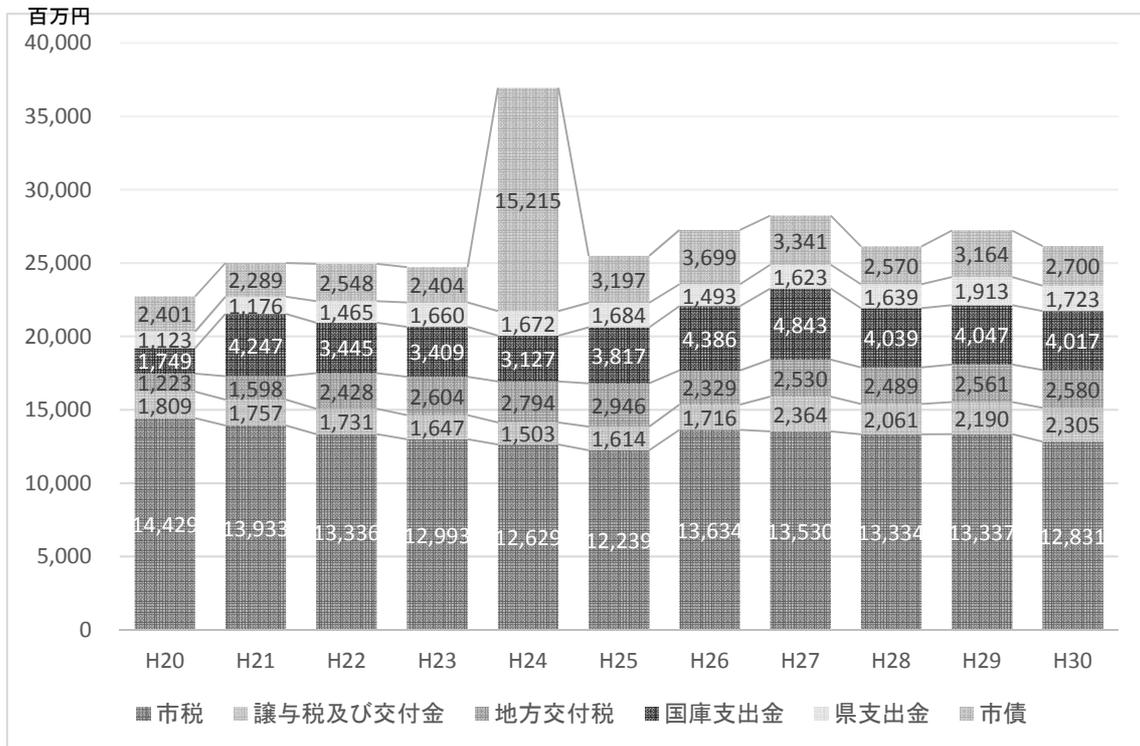
(1) 歳入の推移

図表 歳入決算額（普通会計）の推移

※図表はすべて、茂原市「普通会計決算にみる財政状況」（平成 29～30 年度版）を基に作成。

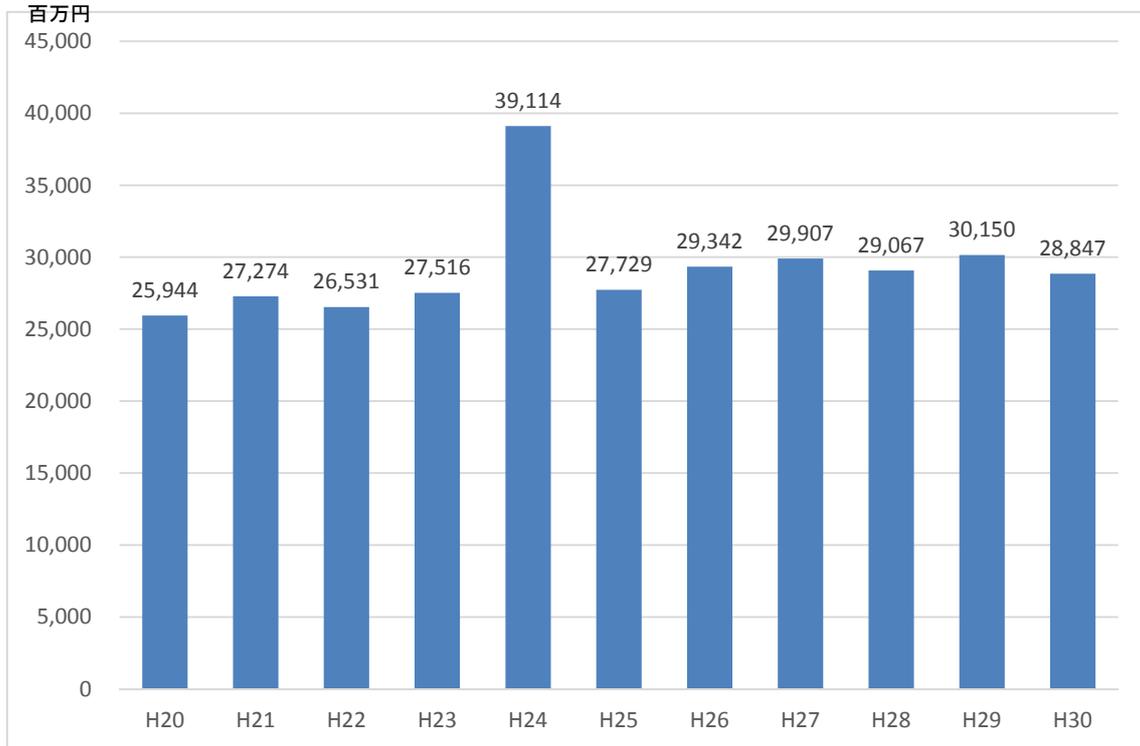


図表 主な歳入の推移

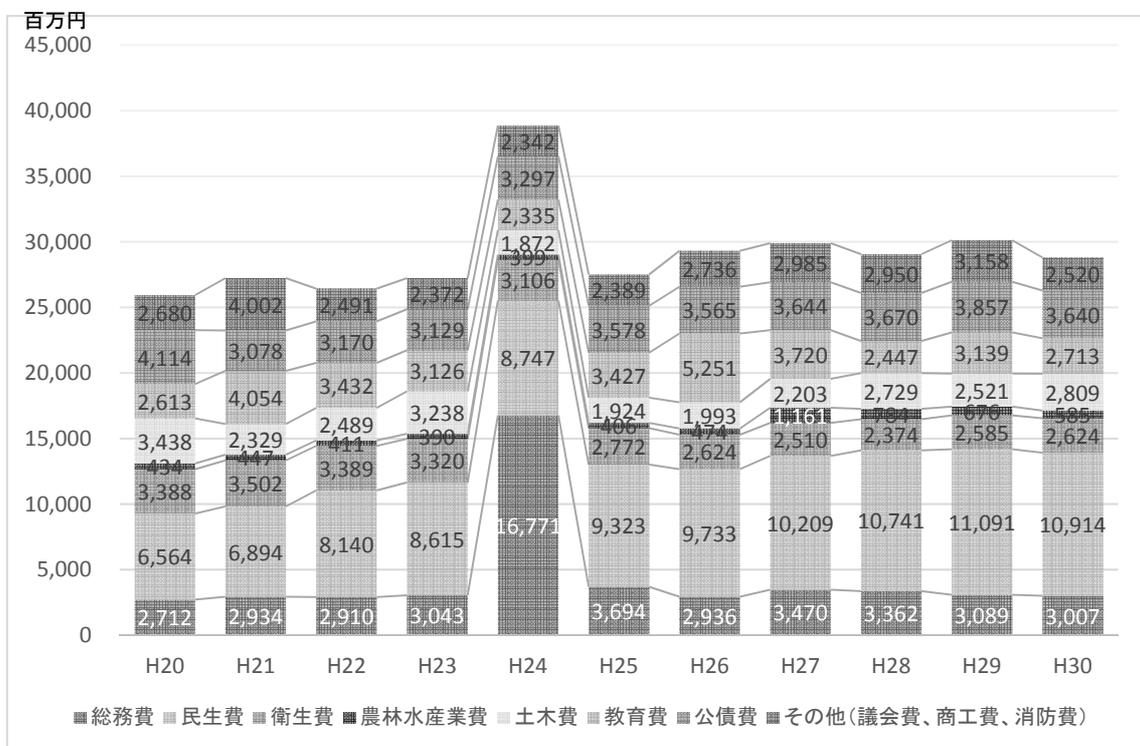


(2) 歳出の推移

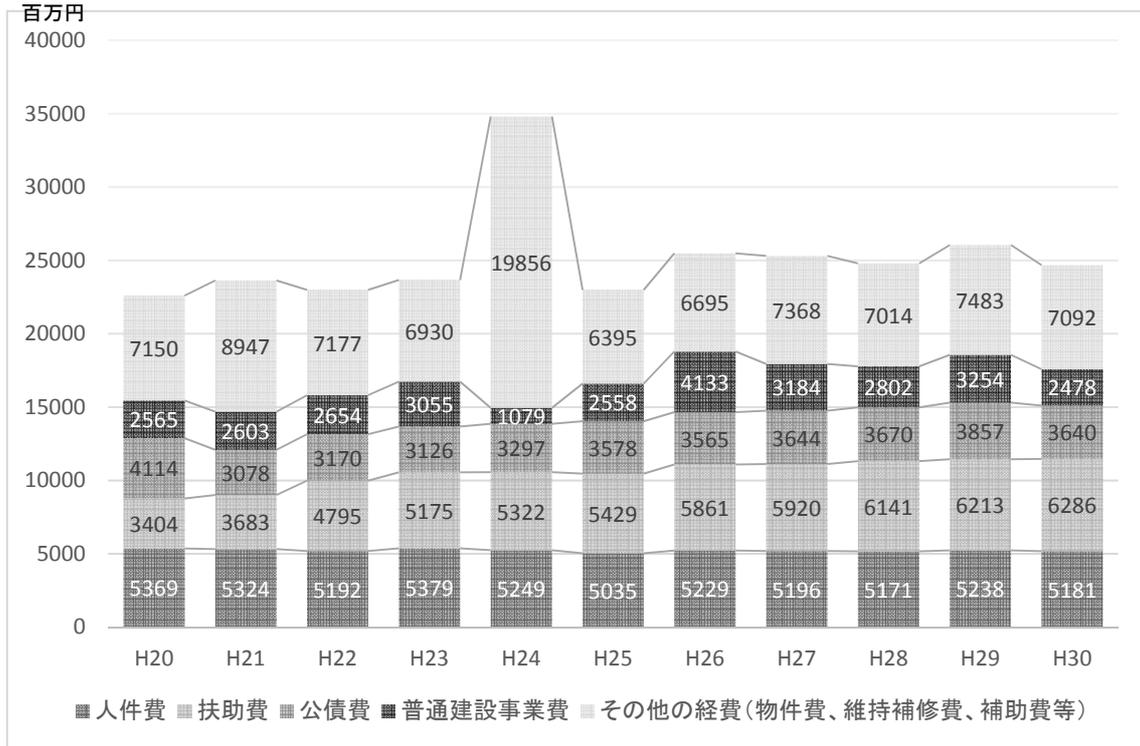
図表 歳出決算額（普通会計）の推移



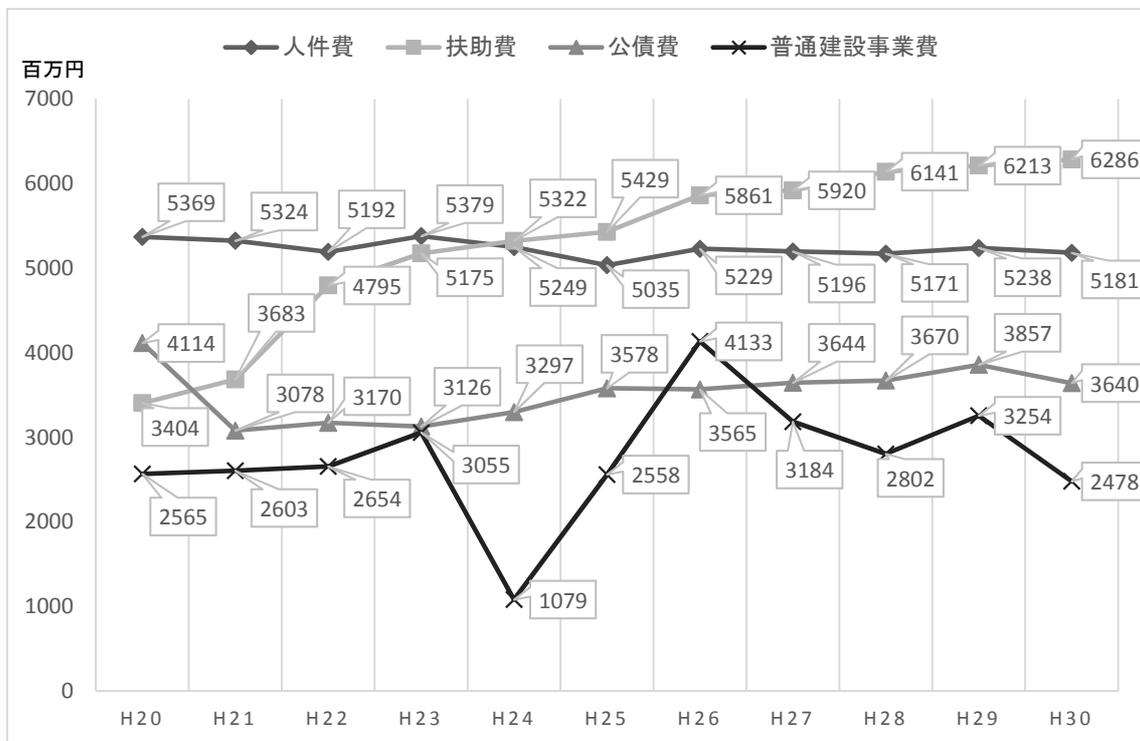
図表 主な歳出（目的別）の推移



図表 主な歳出（性質別）の推移（構成比）



図表 主な歳出（性質別）の推移

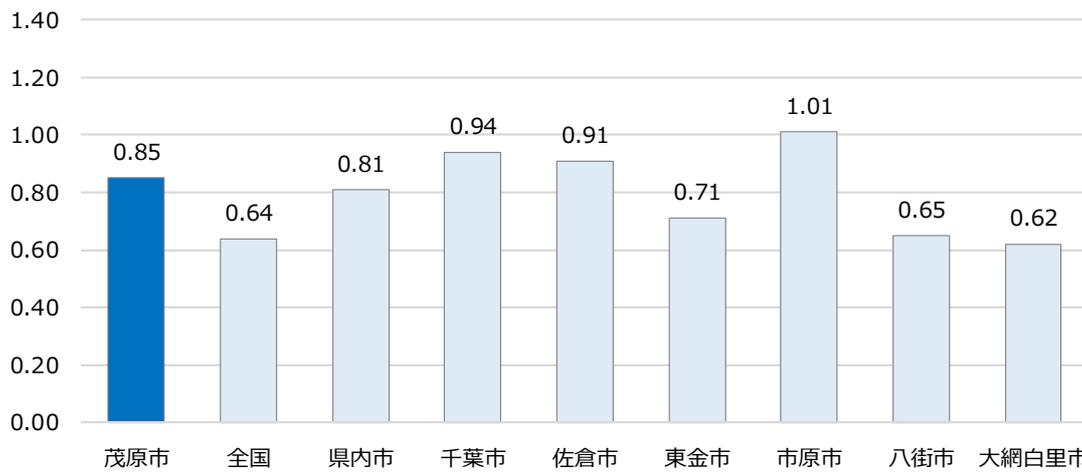


4. 行財政

(1) 財政力指数

- 財政力指数³については、茂原市は0.85で、全国（市区）の平均（0.64）を大きく上回っており、かつ県内全市の平均よりも高くなっています。周辺自治体と比較しても、市原市（1.01）、千葉市（0.94）、佐倉市（0.91）に次いで高くなっており、財政力について一定の強さが見られると言えます。

図表 財政力指数の比較



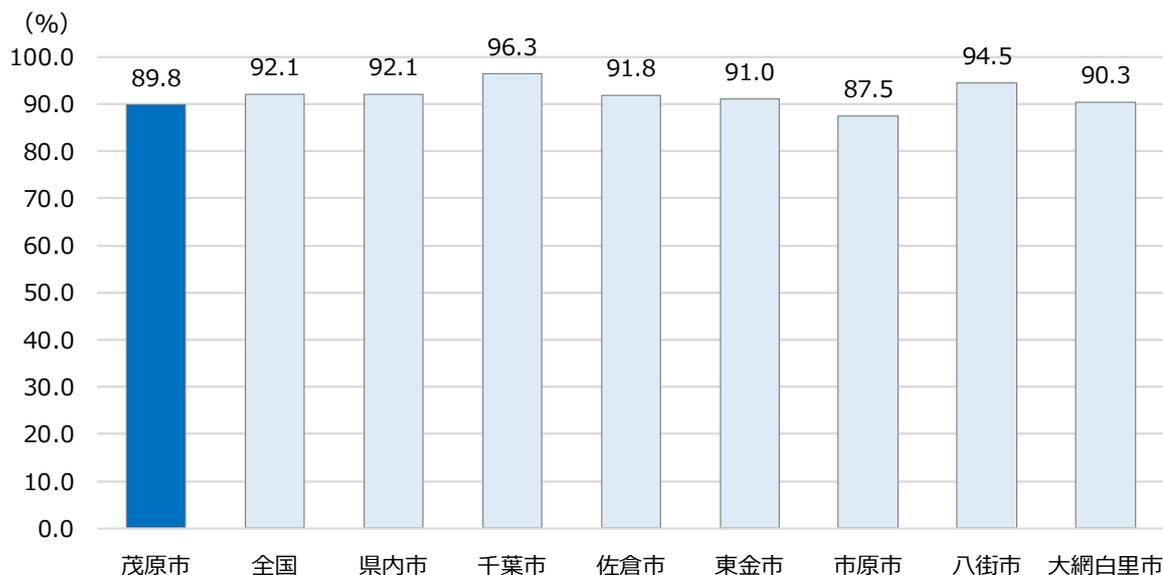
【出典】総務省「市町村別決算状況調」2017年度

³ 財政力指数：基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い

(2) 経常収支比率

- 経常収支比率⁴については、茂原市は89.8%と、全国（市区）の平均（92.1%）及び県内全市の平均（92.1%）と同水準となっています。
- 周辺自治体と比較すると、市原市（87.5%）を除けば茂原市の方が低くなってはいるものの、いずれの都市も90%前後であり、財政運営が硬直化するリスクがあります。

図表 経常収支比率の比較



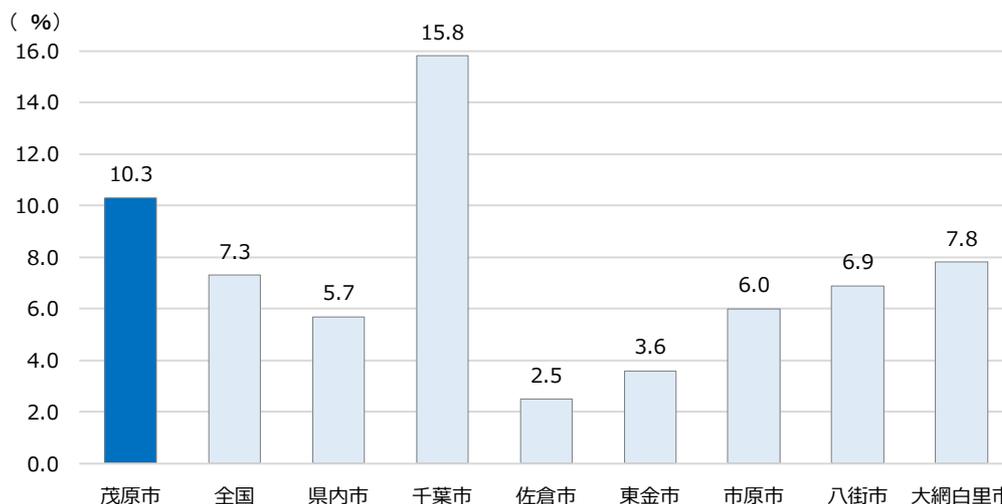
【出典】総務省「市町村別決算状況調」2017年度

⁴ 経常収支比率：人件費や扶助費、公債費など縮減することが容易でない経費（義務的経費）に、地方税や地方交付税などの一般財源がどの程度費やされているかを求めたもので、財政構造の弾力性を測定する指標。低ければ低いほど財政運営に弾力性があり、政策的に使えるお金が多くあることを示している。

(3) 実質公債費比率

- 茂原市の実質公債費比率⁵は10.3%で、千葉市(15.8%)を下回っているものの、全国(市区)の平均(7.3%)や県内全市の平均(5.7%)を上回っており、自治体の収入に対する負債返済の割合が相対的に高くなっています。

図表 実質公債費比率の比較

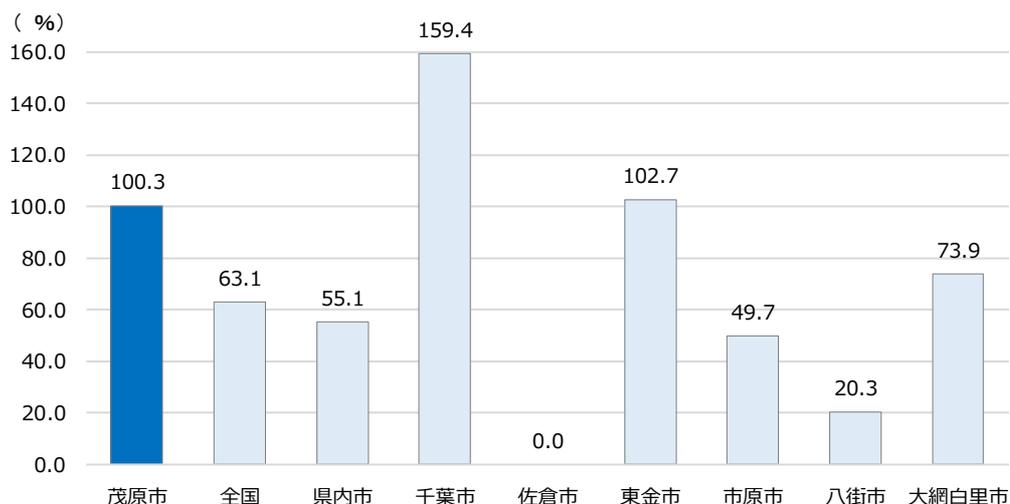


【出典】総務省「市町村別決算状況調」2017年度

(4) 将来負担比率

- 将来負担比率⁶については、周辺自治体の中では、茂原市は100.3%と、千葉市(159.4%)、東金市(102.7%)に次いで高くなっています。自治体の財政規模に対する負債の割合が相対的に大きくなっており、財政の硬直化が見られます。

図表 将来負担比率の比較



【出典】総務省「市町村別決算状況調」2017年度

⁵ 実質公債費比率：公債費に費やした一般財源の額が標準財政規模に占める割合を表すもの。

⁶ 将来負担比率：地方公共団体の借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを、その地方公共団体の財政規模に対する割合で表したものの。

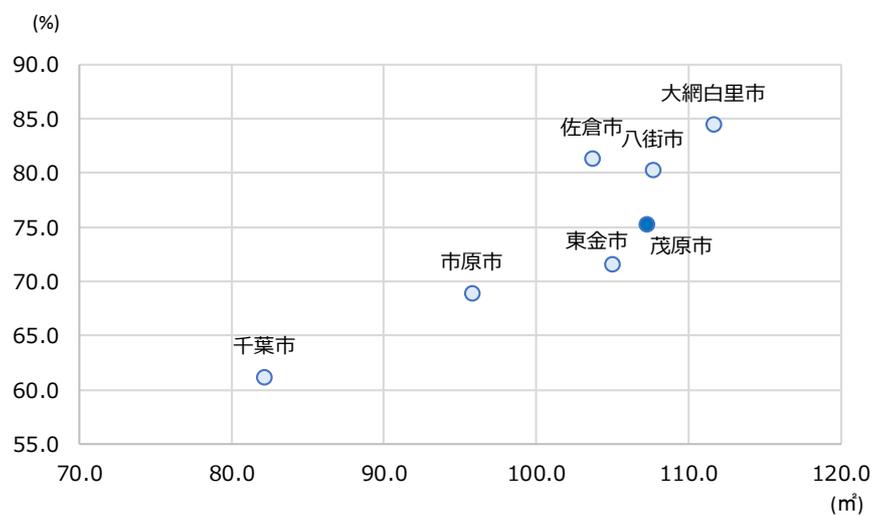
2 生活の場としての魅力

1. 住まい・環境

(1) 持ち家世帯比率・1住宅当たり延床面積

- 総務省「住宅・土地統計調査」(2013年)によると、茂原市における1住宅当たり延床面積は107.3㎡で、周辺自治体の中では大網白里市(111.6㎡)、八街市(107.7㎡)に次いで広がっています。
- 持ち家世帯率については、千葉市が最も低く、61.1%にとどまっています。

図表 持ち家世帯比率・1住宅当たり延床面積の比較



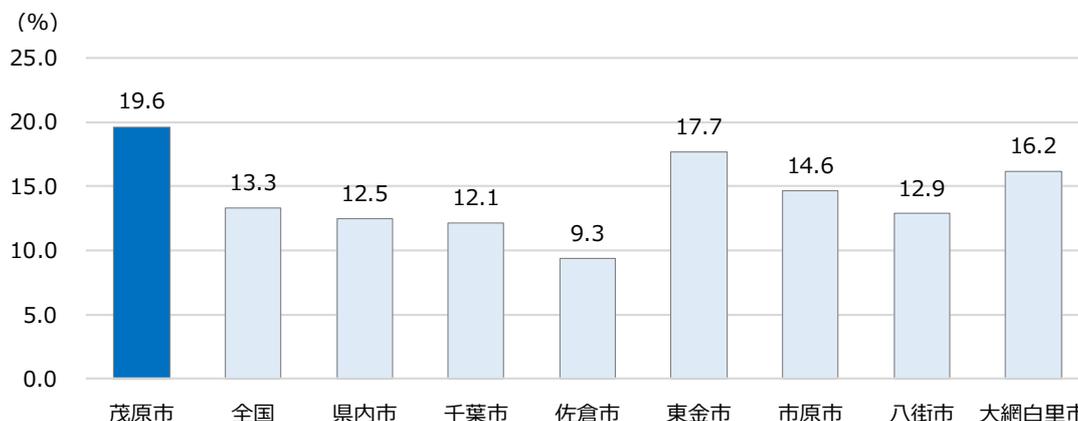
	茂原市	千葉市	佐倉市	東金市	市原市	八街市	大網白里市
1住宅当たり延床面積(m ²)	107.3	82.2	103.7	105.0	95.8	107.7	111.6
持ち家世帯率(%)	75.2	61.1	81.3	71.5	68.9	80.2	84.4

【出典】総務省「住宅・土地統計調査」2013年
「国勢調査」2015年

(2) 空き家率

- 総務省「住宅・土地統計調査」によると、2018年の空き家率は茂原市が周辺自治体の中で最も高く19.6%となっており、全国（市区）平均（13.3%）を上回っています。

図表 空き家率の比較

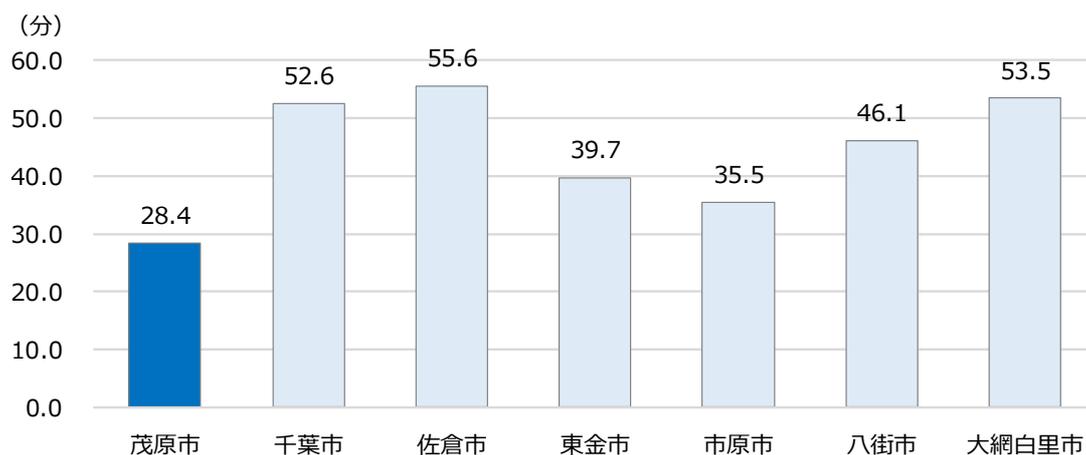


【出典】総務省「住宅・土地統計調査」2018年

(3) 通勤時間（持ち家世帯）

- 持ち家世帯の通勤時間については、茂原市は28.4分と、周辺自治体の中で最も短くなっています。市内に産業が集積し、働く場として機能していることが分かります。千葉市の通勤時間は52.6分で、茂原市より24.2分長くなっています。

図表 通勤時間の比較

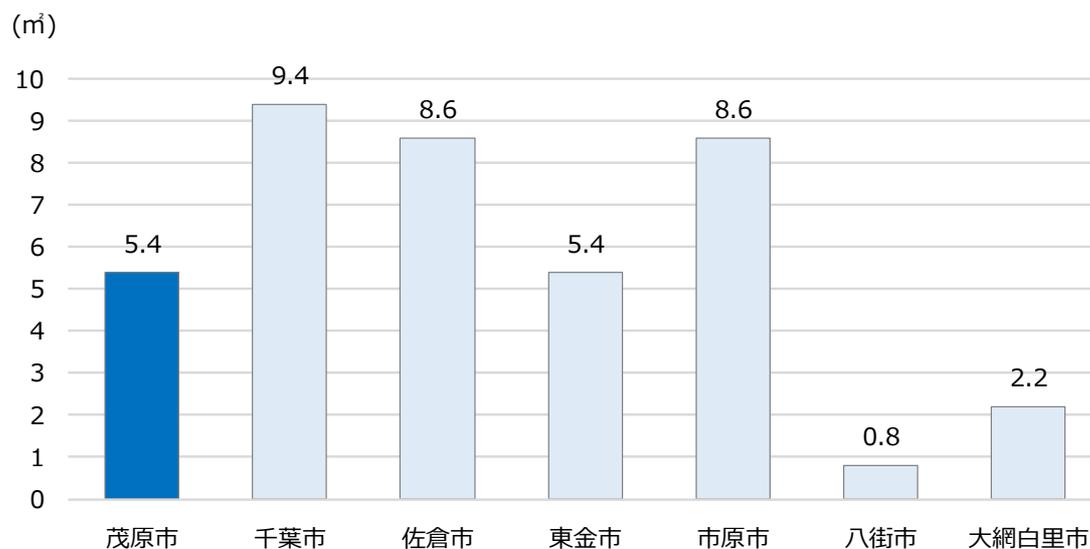


【出典】総務省「住宅・土地統計調査」2013年

(4) 1人当たり都市公園面積

- 人口1人当たり都市公園面積は、周辺自治体では千葉市が9.4㎡で最も広がっています。他方、最も狭いのは八街市(0.8㎡)でした。茂原市には「日本さくら名所100選」にも選ばれており、約16haの広さを有する茂原公園(都市基幹公園)などがありますが、1人当たり都市公園面積は5.4㎡と、比較都市の中では中位となっています。

図表 1人当たり都市公園面積の比較

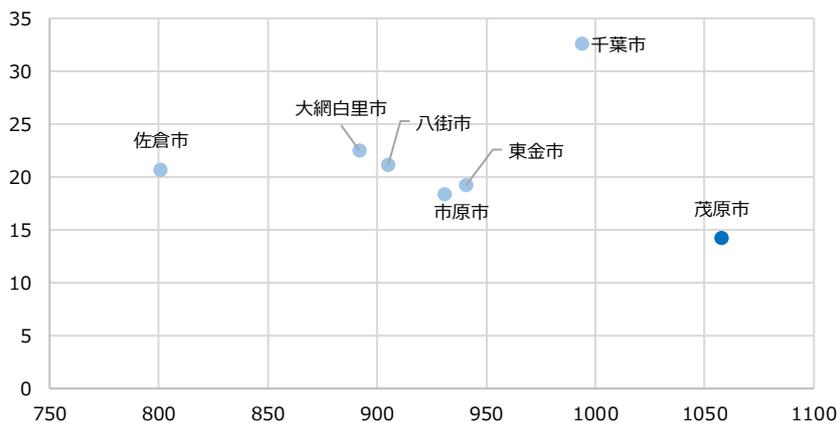


【出典】国土交通省「都市公園整備水準調査」2017年

(5) ごみ・リサイクル

- 1人1日当たりのごみ総排出量を見ると、茂原市が1058gで、周辺自治体の中で最も多くなっています。他方、佐倉市は801gと最も少なくなっています。
- 茂原市のリサイクル率⁷は14.2%で、他市に比べ低い水準となっています。千葉市のリサイクル率は32.6%と最も高くなっています。

図表 1人1日当たりごみ総排出量・リサイクル率の比較



		茂原市	千葉市	佐倉市	東金市	市原市	八街市	大網白里市
一人1日当たりごみ総排出量	(g)	1058	994	801	941	931	905	892
リサイクル率	(%)	14.2	32.6	20.7	19.2	18.3	21.1	22.5

【出典】環境省「一般廃棄物処理実態調査」2017年

⁷ リサイクル率：(直接資源化量+中間処理後再生利用量+集団回収量) / (ごみ処理量+集団回収量) × 100

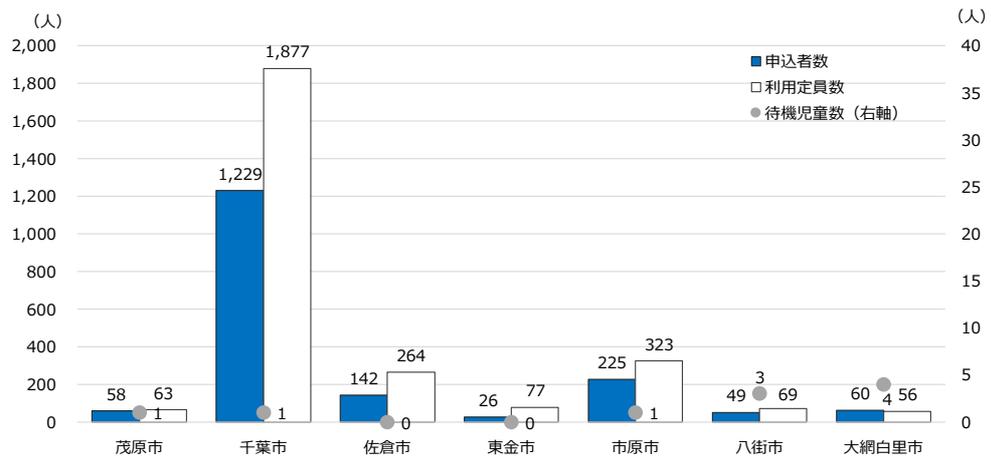
2. 子育て・教育

(1) 保育所

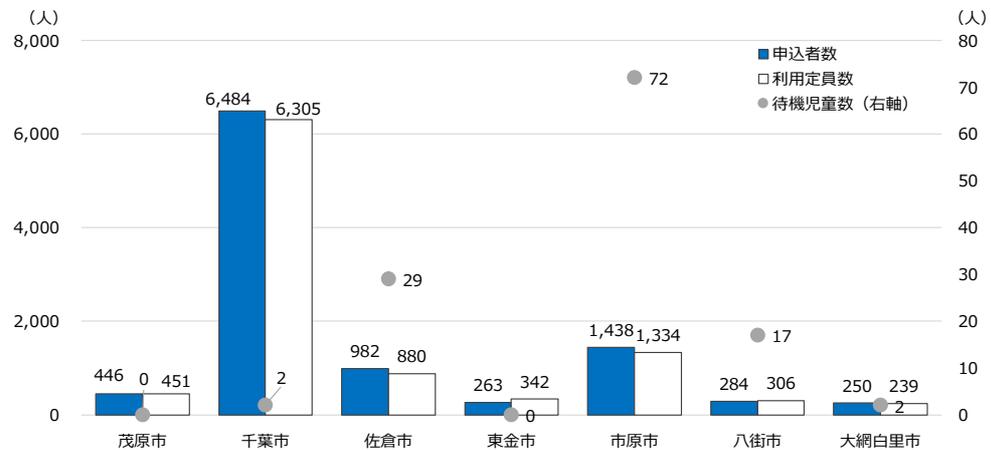
- 保育所の待機児童については、周辺自治体においては東金市以外の全自治体で発生しています。茂原市の待機児童数は0歳児が1人、1・2歳児が0人、3歳児が2人となっています。

図表 保育所の申込者数・利用定員数・待機児童数の比較

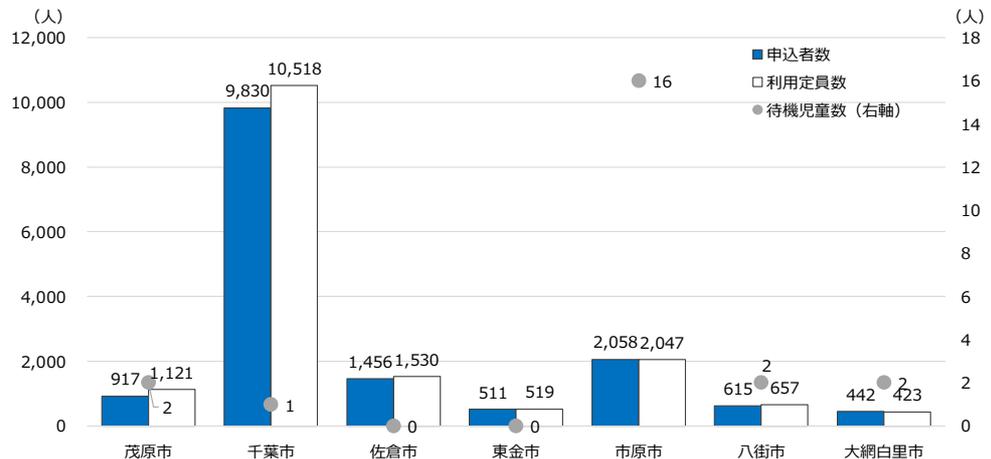
0歳児



1・2歳児



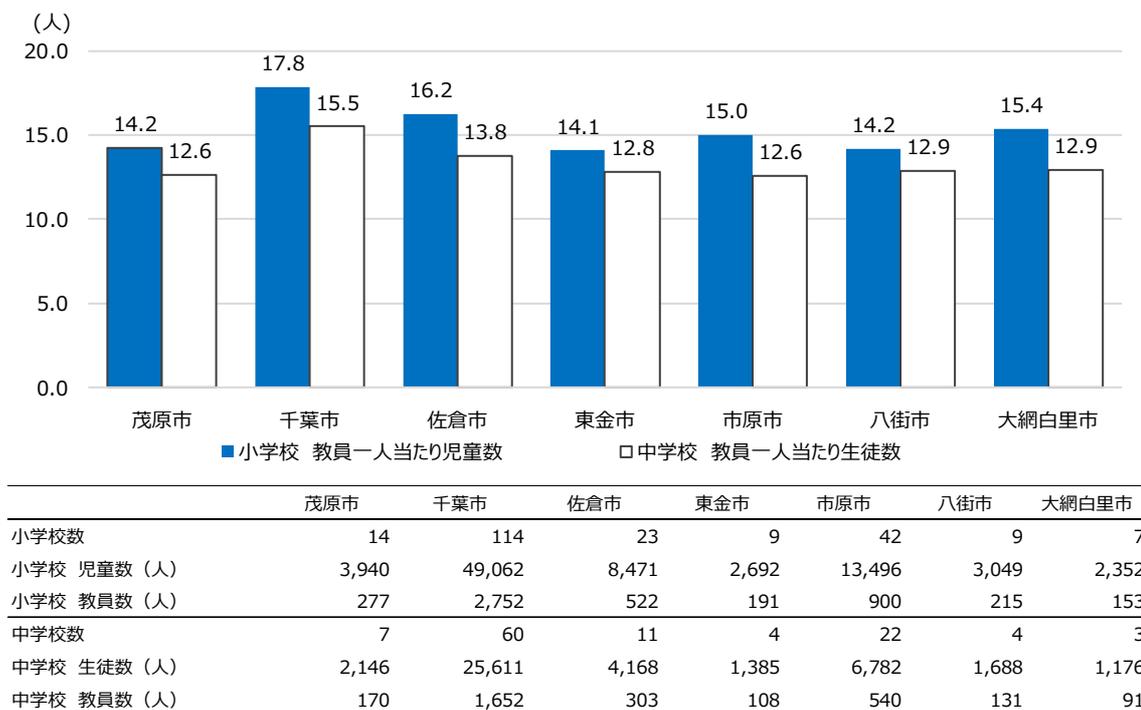
3歳児



(2) 義務教育

- 文部科学省「学校基本調査」2018年によると、小学校及び中学校の教員1人当たり児童・生徒数は千葉市が最も多くなっています。茂原市では小学校で14.2人、中学校で12.6人となっており、千葉市以外の周辺自治体と大きな差はありません。

図表 小学校及び中学校の教員1人当たり児童・生徒数の比較



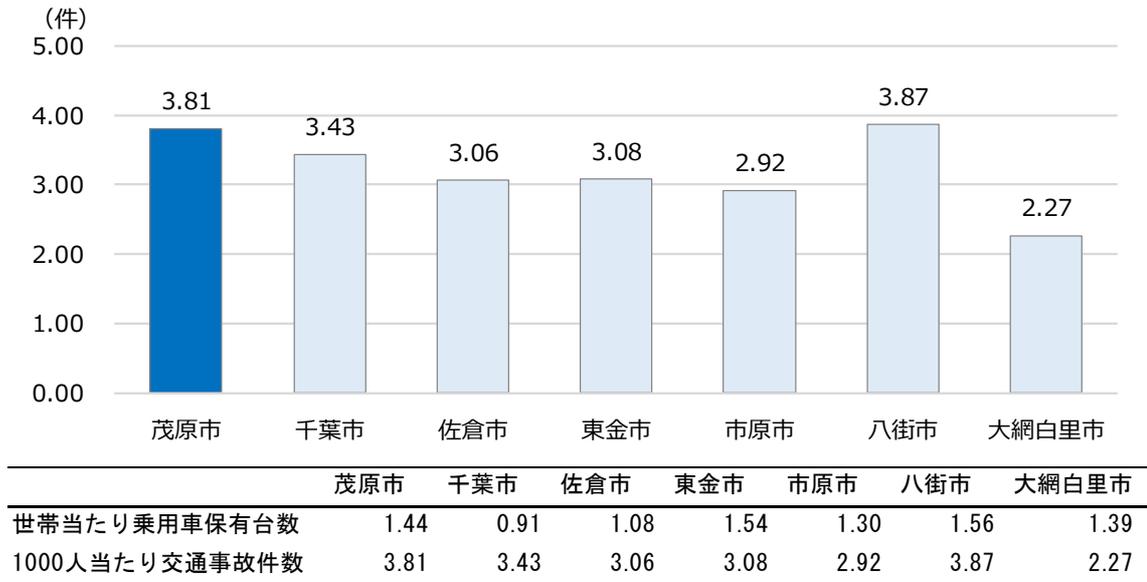
【出典】文部科学省「学校基本調査」2018年

3. 安全安心・医療福祉

(1) 交通安全

- 茂原市の人口1,000人当たりの交通事故発生件数は3.81件で、周辺自治体の中では八街市に次いで多くなっています。

図表 1,000人当たり交通事故発生件数の比較

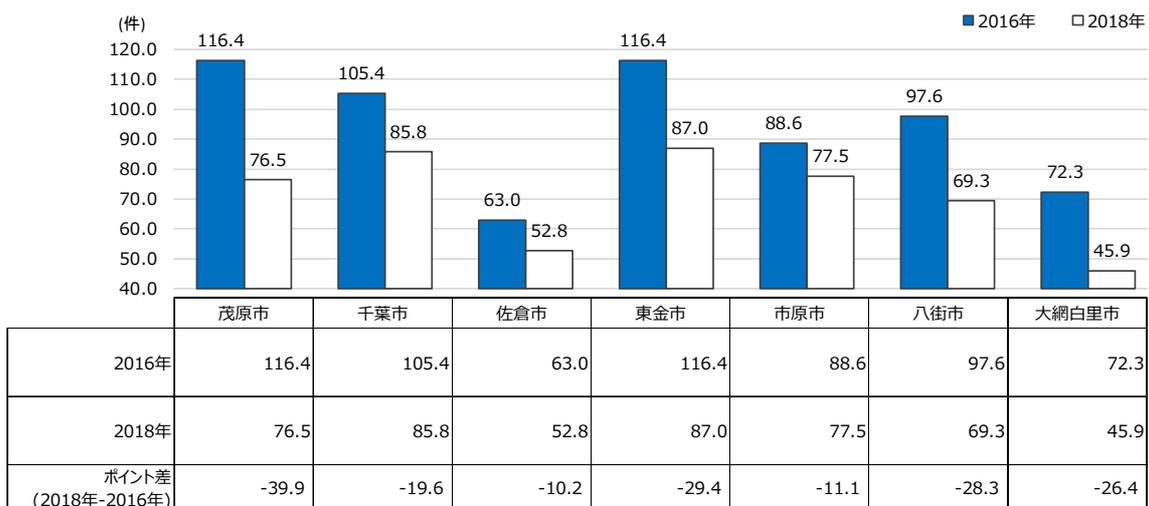


【出典】交通事故総合分析センター「全国市区町村別事故件数・死者・負傷者数」2017年
 自動車検査登録協会「市区町村別自動車保有車両数」2017年
 全国軽自動車協会連合会「市区町村別軽自動車車両数」2017年

(2) 防犯

- 人口1万人当たりの犯罪発生件数を2016年から2018年の推移で見ると、すべての周辺自治体で件数は減少しています。茂原市については、2016年は116.4件でしたが、2018年は76.5件と39.9件減っており、減少幅は周辺自治体内で最も多くなっています。

図表 1万人当たり犯罪発生件数

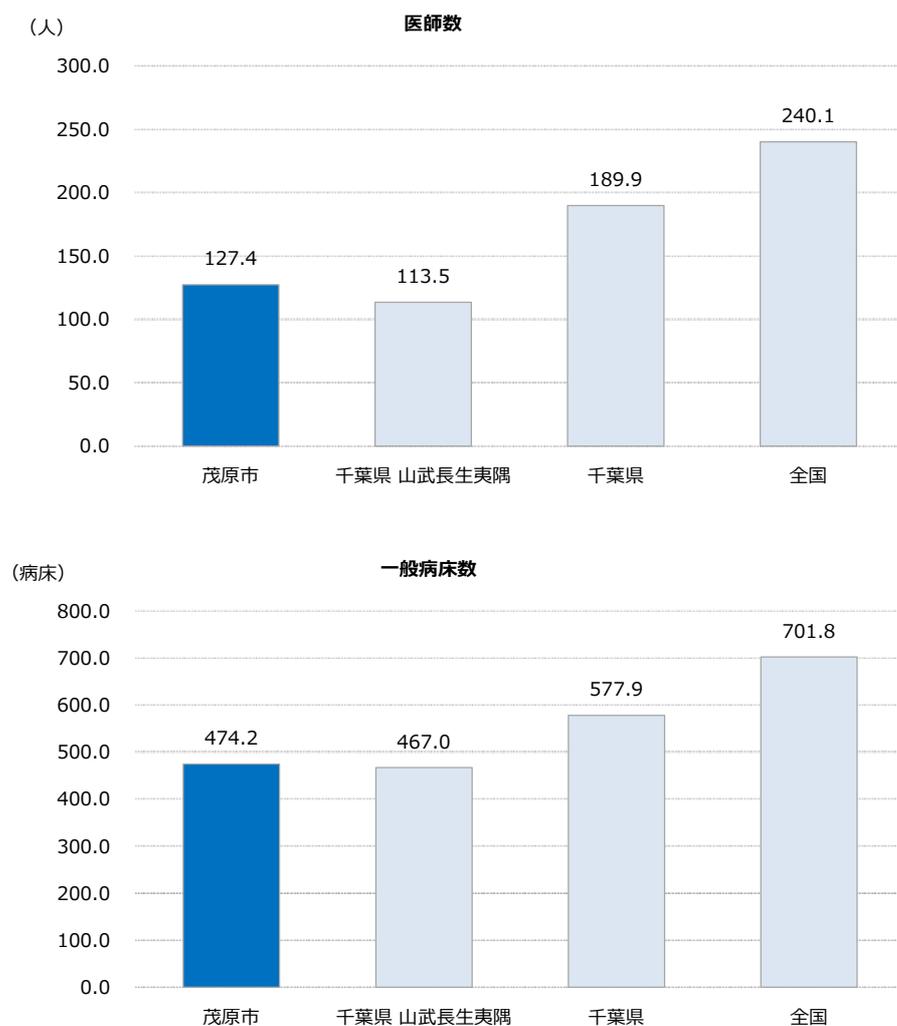


【出典】千葉県警「人口1万人あたりの犯罪発生件数」2018年、2016年

(3) 医療体制

- 茂原市の人口 10 万人当たりの医師数 (127.4 人) は、千葉県や全国の水準に比べ、少なくなっています。他方、6 市 10 町 1 村でつくる山武長生夷隅保健医療圏全体 (113.5) の中では、相対的に多くなっています。

図表 10 万人当たり医師数・一般病床数の比較

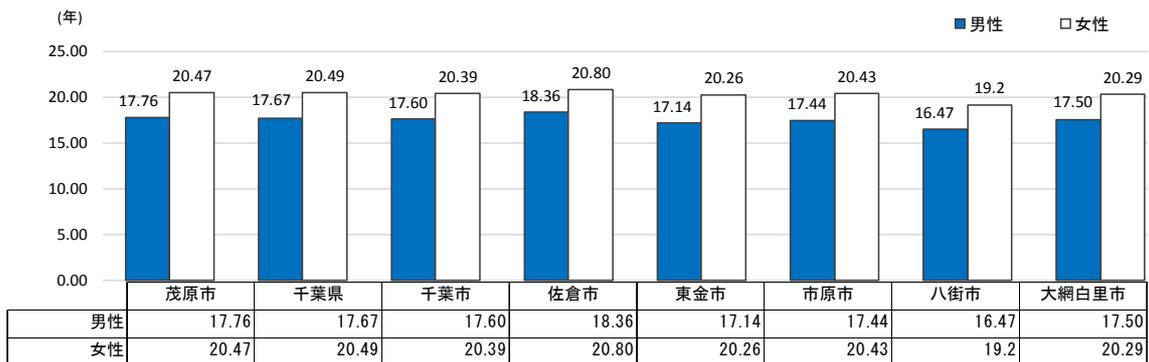


【出典】厚生労働省「医療施設静態調査」2016 年、2017 年

(4) 健康寿命

- 65歳の健康寿命（平均自立期間）を見ると、茂原市は男性（17.76年）が千葉県の水準（17.67年）を上回っているほか、周辺自治体と比べても相対的に長くなっています。また、女性についても、茂原市（20.47年）は千葉県の水準（20.49年）は下回るものの、千葉市（20.39年）を上回るなど、相対的に長くなっています。

図表 65歳の健康寿命（平均自立期間）の比較

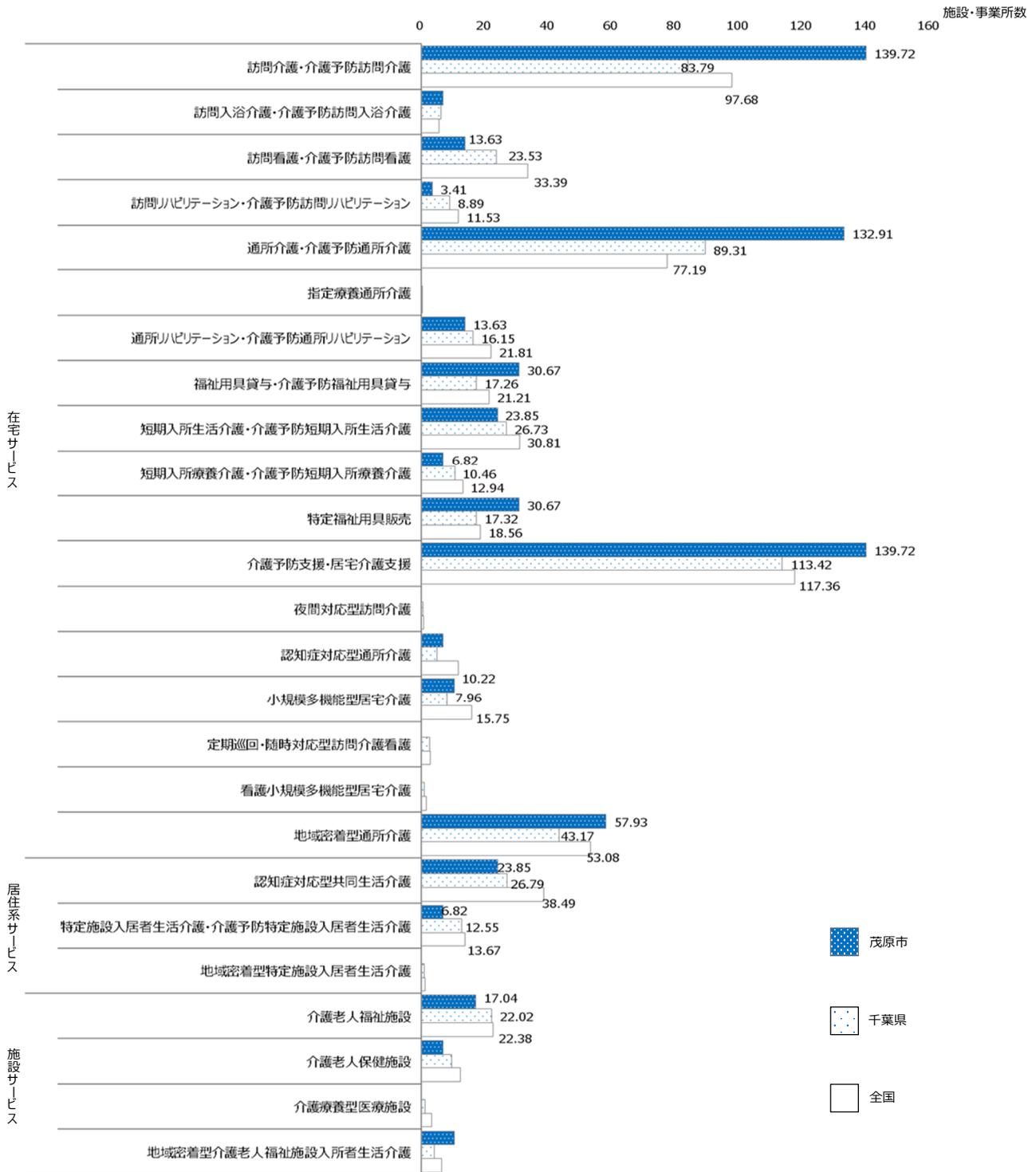


【出典】千葉県「平均寿命と健康寿命（平均自立期間）の状況」2015年

(5) 65歳以上人口10万人当たり介護施設数・事業所数

- 65歳以上人口10万人当たり介護施設数・事業所数をサービス種別に見ると、茂原市は相対的に充実しており、「訪問介護・介護予防訪問介護」「通所介護・介護予防通所介護」「介護予防支援・居宅介護支援」などで千葉県・全国の水準を上回っています。

図表 65歳以上人口10万人当たり介護施設数・事業所数の比較（サービス種別）



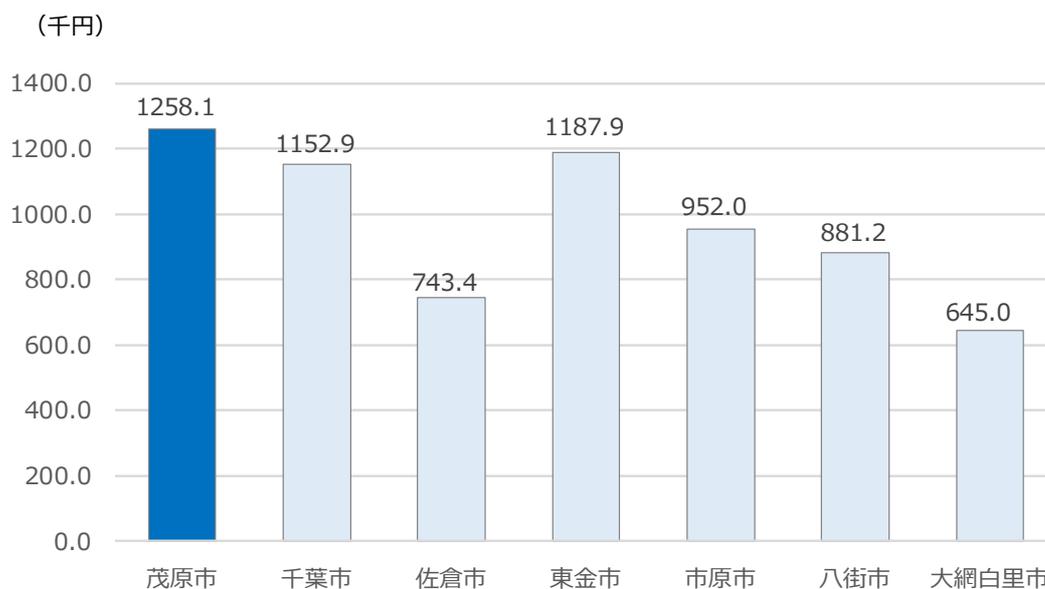
【出典】厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」2018年度

4. 消費生活

(1) 1人当たり年間商品販売額

- 茂原市の人口1人当たりの小売業年間販売額(1年間の有体商品の販売実績)は1258.1千円で、周辺自治体の中で最も高水準となっています。

図表 1人当たり年間商品販売額の比較

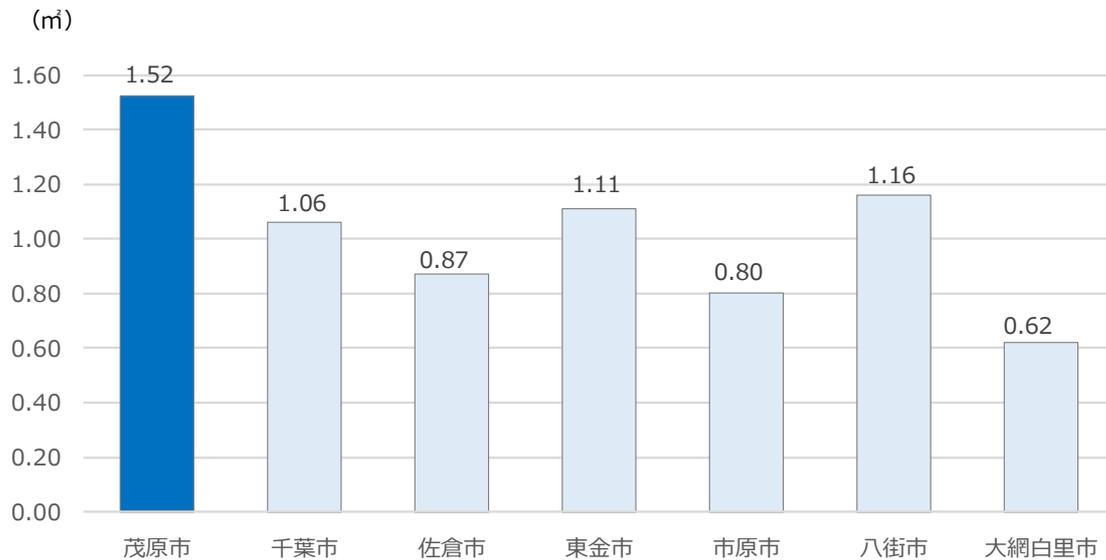


【出典】総務省・経済産業省「経済センサス」2016年

(2) 1人当たり大型店舗面積

- 茂原市の人口1人当たりの大型店舗面積は1.52で、周辺自治体の中では突出して高くなっており、買い物利便性が相対的に高くなっていると考えられます。

図表 1人当たり大型店舗面積の比較



【出典】東洋経済「全国大型小売店舗覧」2017年